

I ではどうしたらよいか？

イ。「教科書・入試が間違いだらけ」と生徒に伝えたらかえって混乱させるのでは その通りなので配慮が必要。ただこういう問題は他の領域・科目でも多かれ少なかれあるので、**生徒と親に「教科書も完璧ではありませんし、入試では運不運によって数点の誤差は出るのが当たり前だ」ということをどう納得させるかにかかっている。**改善の努力はすべきだが、現在の細かい細かい出題形式で完璧はありえない。

ロ．東南アジア史のミニマムとして で海域世界の発達（マラッカルート etc.）について触れる必要は？ 時代区分についても同様（10c は重要では？）。これは優先度の段階が違う。私の第一段階が達成されたら、その次にはこれらを教えてほしいが、**最初からこれらを教えることによって、10 世紀の変革と 16 世紀の変革とどちらが重要かわかっていない生徒を生み出すのはやめてほしい。**

ハ．よりよい入試として、「専門外の分野は出題しない」のはよくないし、かといって定番以外の問題がでない（東南アジア史はたったの 20 問）というのもよくない。そうならないための見通し・戦略は？ 専門外の出題でズッコケないためのチェック体制の整備、出題形式の工夫があれば、一部難関大学以外は「東南アジア史は 20 問」でも差し支えない。

ニ．毎年、厳密な入試問題を作るのは別の専門部局をおかない限り困難では？ その通り。これまでの大学内部のマンパワー（資源）の配分が間違っていた。「弱小大学」が受験産業に作問を委託するのはやむをえない。

ホ．センター試験の東南アジア史の取り上げられ方はどう評価する？ センター試験の形式そのものが評価できない。資格試験ならもっと単純な問題にすべきだ。現在の東南アジア史の出題割合は小さすぎて、本気でみんなに東南アジア史を勉強させるものにはなっていないし、あの出題形式では中国やヨーロッパなどメジャーな地域と比べても断片的な出題しかできない。あれなら（共通一次時代に一度だけあったと記憶しているが）数年に一度大量の出題をして、あとの 2、3 年は「休み」にするのがよい。

ヘ．民族について説明することの危険性はわかったが、高校教員は教科書に頼らざるをえない。その部分で問題点を指摘されても困惑する 解説情報を大学側からもっと提供する必要があるのだが、とりあえず私のリブレット（細かい点で難があるが）などの参考文献を読む余裕のない方は、「ミニマム」だけにしてほしい。それに反発する高校生や親には、教科書を信じる発想そのものに問題があることを、なんとか説明してほしい。

ト．用語の表記や訳し方を学者間で統一する話をし、公開してほしい 検討が必要。一部は同朋舎刊「インドネシアの事典」「タイの事典」「フィリピンの事典」「ベトナムの事典」で提示済み。ただし、カタカナというのははなはだ不完全な文字なので、適当な表記ができない名辞はたくさんある。そのことと学者の理論などがからむと、完全な統一はできなくなる点もご理解いただきたい。

チ．東南アジア史の教科書がそんなに間違っているとしたら、なにを確認したらよいか？ / 用語の表記はなにを参照したらよいか 帝国書院教科書と本研究会の過去レジュメ（とくに山川『歴史と地理』論文）以外では、上記の同朋舎刊の各事典、平凡社『改訂東南アジアを知る事典』（2007 年刊行予定 - 現行版はボロボロ）、山川各国史の東南アジア島嶼部の巻（大陸部の巻は編集が雑）など。山川世界史小辞典、角川世界史事典もまあまあ。

リ．授業プリントを作るとき、何冊かの教科書を見て、できるだけ細部を加えてイメージをつくるようにしているが、これは間違いでできるだけ簡略化した方がよいか？ 暗記の部分を簡略化しようということ。「覚える語句」は少なくとも、イメージは作れるはず。

ヌ．学界で70年代から定説になっている問題が、教科書では2004年によく訂正：このギャップをどう埋めればよいか？ 山川リブレットは良いシリーズ。ほかに「違いが分かる」解説書などを増やす必要がある。

ル．これまでの東南アジア史は王朝交替史だったが、実力主義・実利主義で永続的支配体制が困難だった東南アジアについて、この教え方は今後も続けられるべきだろうか？ 便宜的にはやむをえないが、できれば教える王朝の数を減らして、浮かせた時間で「アンコール時代のカンボジア王26人のうち、前の王の息子や弟、つまり血縁で王位を継いだと言えるのは8人だけ」という事実を教えてほしい。

II 東南アジアの教え方

イ．図説や教科書で前近代東南アジア国家の領域を示す際の基準はなにか？ **示せない**。理由は本研究会の過去レジュメ、リブレット等をご覧下さい。ひとこといえば「世界地図は国毎に色分けできる」という発想自体が近代国民国家の産物。

ロ．東南アジアの地図で領域の色分けをやめたら、どう表現すればよいか？ 拠点やルート、移動方向などだけ示す。どうしても必要な場合は「領土」「最大版図」でなく「勢力範囲」として塗り分ける。

ハ．マジャパヒトの最大版図の話があったが、シュリーヴィジャヤはどうか？ マジャパヒトはいちおう陸上の農民もたくさん支配しているが、シュリーヴィジャヤはマラッカ海峡域の港市群と海上ルートを支配しただけだから（それも「ゆるやかな連合体の盟主」という程度）、「最大版図」など示せない。

ニ．東南アジア国家に両利き支配はないというが、港市国家のネットワークで成り立つシステムというのは非常にわかりにくい。自給農業は「相手がなくても」できるが、貿易は相手がなければできない。そこにネットワーク形成の必然性がある。マラッカ海峡のような場所を押さえた港市は圧倒的に有利になる。そもそも東南アジアには東西貿易の中継、香辛料など世界商品の輸出という、貿易を拒否できない圧倒的要因があり、港市の成立は不可避である。一方、面的な農業国家成立が困難な理由は上記文献（ジャングルに人は住めない。住めないところを面的に支配しても仕方がない）。

ホ．海域史のような「地域史」として東南アジア史を教える上でのポイント（コツ）を例示してほしい。実は東南アジアは、「海が歴史を動かしている」という点では海域を取り上げるにふさわしい地域なのだが、その海は東アジア、インド洋、太平洋など他の海につながっているため、具体的に海の動きを説明しただと東南アジア海域だけですまなくなるという難点（学問的にはむしろ面白さ）がある。海の大事さの例としては、マラッカ王国の例（陸上にまともな「領域」はもっていない、食糧すら自給できない港市国家が、「ヴェネツィアの喉元に手をかける」「マラッカの市場では84種類もの言葉が聞かれる」（トメ・ピレス『東方諸国記』岩波大航海時代叢書）などという繁栄を実現しうる）など。

ヘ．（世界史Aで）独自性を失わず誤解を招かない範囲で中国史に絡めて授業することは可能か？ 東南アジアを完全に孤立させたら、一国史と同じことになってしまうので、他地域と絡めて教えるのは良い。ただし生徒は「インドの影響は教えないと思いつかない、漠然と中国の影響が圧倒的に強いと思っている」という状況ではないか？ 歴史的に中国との関係が圧倒的に重要になるのは清代以降のこと。

ト．山川詳説新課程版は、従来中国の付録にしていた部分をテーマによって分散させ、その結果バラバラになっている印象を受けるがどうか？ その通りだが、帝国も同様であり、考え方自体はこれが正しいので、より穏当なやり方を模索するしかない。

チ．雲南などにタイ系の民族が多いのなら東南アジア史に組み込んだ方がいいのではないか？ / 雲南省は東アジア・東南アジア地域との関わりで言うとどんな関係？ 雲南の位置づけについては講談社中国の歴史、山川リ

ブレットなどの上田信氏（立教大）の著作を読みたい。雲南はチベットや中央アジアとも狭義の中国ともつながっており、その点が悩ましいのだが、逆に雲南を加えないと東南アジアの説明が不十分になるのは確かである。

リ．ミクロネシア・ニューギニア・オーストラリアはどの「タコツボ」に入るのか？ ミクロネシア・オーストラリアはなぜ東南アジア史に含まれないのか？ 従来は「考古学・人類学＋西洋史」東南アジアに入れない理由は便宜的なものにすぎないが、現在ではASEANの範囲を（あくまで便宜的に）重視する意味が高まっている。

ヌ．この研究会ではインド史、とくにムガル以前が世界史の大きな枠組に組み込まれていないように思うがその理由は？ 「阪大史学」の単なる人的限界か？ その通り。**従来のアリア族中心史観と違ったインド史像の必要性は高いのだが。**

ル．ホセ＝リサルやアギナルド以前のフィリピンは、国民国家形成以前ということで、東南アジア史の中でふれる必要はないと言ってよいのか？ そんなことはない。現行版では国家形成の開始（p.94）イスラームの拡大（p.122 地図）、大航海時代のフィリピン（p.169 注1, p.187）などが書いてある。

ロ．東南アジアの主体性について、第二次世界大戦で日本と宗主国を天秤にかけた動きなども記述すべきでは？ 帝国旧版 p.289、339 に少し書いたのだが、現行版では消えている。

ワ．**東南アジア史理解が世界史理解にどう貢献しうるか** 04年講義レジュメに「日本史理解にどう役立つか」の観点で書いたもの、帝国書院指導書などをご覧ください。

III 東南アジア史そのものとの考え方

イ．最近の教科書はなぜバンコク朝、チャクリ朝でなくラタナコーシン朝と表記するのか？ バンコク朝は首都の通称にもとづく王朝の通称（首都の長い正式名称の最初の部分を取った「クルンテープ朝」という呼び方もある）チャクリ朝は初代王の名にもとづき外国人が使う通称、ラタナコーシン朝は正式な自称。

ロ．タイについて、シャム（現タイ）とするよりタイに一本化する方がよいのか？ 「タイ」を無条件で使っているのは、13、14世紀に成立したタイ系諸国家（スコタイ、チェンマイ、ルアンブラバン、アユタヤなど）1939年以降のタイ王国だけ。逆に「シャム」は、アユタヤ～バンコク朝の通称。これを無条件に「タイ」と呼ぶと、「国民国家史観」に陥る点が要注意。

ハ．ミャンマーとビルマの使い分けはした方がよいのか？ 研究者の間でも意見が分かれる。ミャンマーと改称した軍事政権による「ビルマは英語だから自国語に言い換えるのだ」という主張はウソで、両方とも前近代に使われている。前近代王朝がモン人なども含んだ多民族王朝であった点を重んじると、現在の政権（少数民族弾圧で悪名高い）が自国語主義を取るの、多数民族のやり方を押しつける悪しきナショナリズムの典型だから従うべきでない、という理屈も成り立つ。

ニ．東書の新版の表紙写真はアウトリガー船が掲載されているが、NHK海のシルクロードはピニシ船を掲載している。ジャンク、ダウ船などとともに商用で東南アジアで使用された船は「ピニシ船」ではないか？ ジャンクやダウは多数の下位分類を含む総称。ピニシはそうではない特定の種類の大型帆船の名称で、ほかにもいろいろ種類がある。アウトリガー船の方が、きわめて特徴的な形状から見て、東南アジア・オセアニアの在来船として紹介するにはふさわしいと思われる。

ホ．今回の講義に鶴見良行が出てないが、かれを越える人はいないのでは？ 「バナナと日本人」を取り上げた。

現在では鶴見良行に学びつつこれを乗り越えようと努力する若手が輩出している。

へ．先史時代について、中尾佐助『栽培植物の起源』などにもとづいて、東南アジアがタロイモ、ヤマイモ、バナナなどで最古の農耕をおこなってきたと教えてきたが、これは現在も妥当性をもつか？ 多分持たない。あれは「ユニークな仮説」にすぎなかった。

ト．東南アジアの王朝において、特定の宗教を支配階級が統治手段として被支配者階級に強制することはあったか？ もちろんそういうアイデアはあるが、それを実現する能力（支配機構）は近世にいくらか出てくる程度で、中世以前の国家はほとんどが民族にせよ宗教にせよ雑多で流動的な集団の寄り合い状態にすぎない〔東南アジアを馬鹿にしようと思えば、「東南アジアに真の意味の国家はなかった」ということになる〕

チ．阿倍仲麻呂は（安南の）都護だったか節度使だったか？ 安南都護府の長官として「安南節度使」の官職をあたえられた！ 中国の役所・役職・称号の相互関係はとてもややこしい。

リ．南インドの王朝は、東南アジアにどの程度の影響を及ぼしたか？ 戦前にインド中心主義の立場から大論争があったが、いまだによくわからない点が多い。古代のパッラヴァ朝が、東南アジアの「インド化」が本格化する4、5世紀にかなりの影響をあたえた可能性は強い。東南アジアの上座（部）仏教は、スリランカから伝来した。11世紀にタミルのチョーラ朝は、マラッカ海峡支配を企てたらしく、この時期のタミル商人が各地に碑文を残している。近世以降のイスラームにも、南インドのムスリムがしばしば影響している。

ヌ．東南アジアにジャーティ（カースト）が形成されていないなら、ヒンドゥーの神々を祀る専門職としての聖職者は、身分としては存在していなかった（世襲ではなかった）ということなのか？ 東南アジアでは職業は身分とあまり結びつかない（付くとすればむしろエスニックグループ）とされる。バラモンの場合、世襲はされている例がある（アンコールの都には、母系で世襲されるバラモンの一族 バラモン本人は男性 がいたとされる）が、独立した社会的身分として認知されていたかどうかは疑問。といってバラモン＝インド人という観念があったわけでもなさそうで、よくわからない。現在のタイ（上座仏教国）でも、国王の即位儀礼はバラモンがおこなう。

ル．インドネシアの「仏教 - ヒンドゥー - イスラーム」という区分はセンター入試の類似問題の影響 有り難うございます。見逃してました。「専門家」が適切な問題を作れるとは限らないという実例か？

ヲ．アンコール帝国の衰退の一要因としてタイ族の南下をあげている書物があるが？ セデスの「13世紀の危機」論の核心のひとつはここにある。ただしそれは13世紀末のこと。本日プリント p.10 参照。

ワ．元と陳朝大越の関係： 『安南志略』には元が軍事的に「撃退」されたのでなく熱病等による元軍の弱体化が原因と書いてあるが？ 元は亡命した陳遺愛を安南国王に冊封し実際の王を「世子」と呼んで支配者とは認めていない。陳朝は元に服属というより、両者は外交的駆け引きを繰り返していただけないのか？ 安南志略は元に降伏した人物が元で執筆した書物だからそういう書き方になる。もちろん元軍の疲弊は事実だが、「疲弊につけ込んで軍事的に大打撃を与え元軍を撤退させた」ということ。参：山本達郎『ベトナム中国関係史』（山川出版社）。私の言ったのは「陳朝が服属していないとはいえない」ということ。

カ．鄭和について現代中国が力を入れている印象があるが、アフリカ政策にリンク？ 世界の華僑の結集、アフリカ政策などきわめて政治的意図をもっておこなわれている部分がある（1421年に鄭和艦隊がアメリカに着いたというイギリス人好事家のトンデモ本への中国政府の公式支持など）。この問題を、現代青年の安易な反中国感情を煽らないように教えるのは簡単でない。

ヨ．16、17世紀東南アジアの大交易、中国人ネットワークや朱印船などと比べて東南アジア側の貿易への貢献度

はどのていどのものだったか？ 中国人、日本人やヨーロッパ人は東南アジアを通る「世界貿易」を支配しているだけで、ローカルな貿易や、世界商品の集荷は、東南アジア諸民族によっておこなわれている（ただし厳密に言うと、だれが中国人でだれが東南アジア人か、インド人かわからない状況は、遅くとも13世紀から存在するが）、18世紀以降には中国人が、ローカルな貿易や生産・集荷にまで進出し、これとの競争に敗れた諸民族がづつづつと、「貧しい自給農民」になってしまう〔現代のODA 専門家やNGO 活動家のほとんどは、こうした「貧しい自給農民」がずっと昔からいたという間違った前提の上で、「かれらを助けよう」という「援助」をおこなっている〕

タ．16・17世紀の東南アジア貿易と、19世紀末のアジア間貿易との間に連続性はあるか？ 杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』（ミネルヴァ書房、1996年）などの説を要約すれば、19世紀末以降のアジア間貿易はイギリスの綿貿易と東南アジア島嶼部に持ち込まれた世界市場向けプランテーション生産を基軸として発展したものであるから、その点で以前の段階とは断絶がある。ただし、この二者に対応してアジア間貿易がすみやかに発展できたのは、在来のネットワークを土台とする。この点では連続している。そのことと議論のレベルが違うが、17世紀末に世界的な「17世紀の危機」の影響でアジアを含む世界の遠隔地貿易はいったん後退したと考えられる。これへの対応策として、近代世界システムと植民地支配の拡大、鎖国下での独自の市場経済の形成と技術革新、華人ネットワークの膨張など、19～20世紀を予告するさまざまな動きが生じたととらえられる。

レ．「強制栽培制度」はやはり搾取ではないのか？ その通り、たしかに搾取である。ただしコーヒ生産地域など「開発が進んで豊かになった」地域もあり（もちろん、外部市場への依存、経営と労働の自律性の欠如など、あくまで「従属経済」である）どこでも食うや食わずの惨状におちいったというのは、「反対派や独立運動家によるデマ」問題、**「植民地支配といえば現地人はひたすら暴力的に弾圧・搾取されていた（現地の富の絶対値は減少した）、植民地といえば宗主国の工業製品を買い、食糧・原料を（宗主国向けに）生産するだけだった」などの通俗的理解をあらためてほしい、そうしない限り、「われわれは植民地を開発してやったのだ、近代化させてやったのだ」という旧支配国の開き直りとの間では水掛け論にしかならないし、生徒には「かわいそうな、弱いインドネシアの人々」という蔑視と紙一重の憐憫を植え付けることにしかならないということ。帝国書院 272-274、316-317 ページなどを読んでほしい。私は植民地支配を糾弾する立場でこの議論をしている。**

ソ．「強制栽培制度」が不適ならなんと呼んだらよいのか 言葉狩りをしているのではないので、用語が不適だとはしていない。問題は中身も知らずに語句だけ出題すること。ただし原語は正式に「政庁管掌栽培」であり、その略称が「栽培制度」。「強制栽培制度」は批判派（19世紀後半に人権派が論陣を張る）の用語。

ツ．強制栽培制度でオランダ国家が財政的に生き延びたという説は正しいか？ ジャワ戦争の出費、1830年革命によるベルギーの分離などで破綻したオランダ財政を救ったというはその通りでしょう。

ネ．「マレー連合州」は「連合」とあるから複数を意味しているのでは？ 「連合した結果一つになった州」とも解せるので、適切ではないでしょう。

ナ．帝国 p.272 の地図には「メコンデルタの水田開発」としてホーチミン市が入ってるがよいのか？ だめです。図のタイトルが悪いの見逃しました。

ラ．東南アジアの人々は旧宗主国に対して、韓国の人たちが日本に対して感じているような植民地支配への反感を強く持っているのか？ もっていない。理由は 東南アジアの人々はあんな東アジア的な生真面目さをもっていない、もっと実利主義的である、歴史が違う。東南アジアには朝鮮王朝のような長く続いた確固たる「国民国家の原型」がない一方で、植民地侵略者は一国だけではない地域が多いので、ナショナリズムの基盤も憎しみの対象も一つに収斂しにくい。

ム．英領マラヤの独立事情。インドより 10 年遅れた理由 山川各国史、山川世界現代史などをお読み下さい。

ウ．東南アジア史がここまで国民国家史観に毒されているとは！ 現在でも ASEAN は EU と違って、「国民国家が互いを強化するための協力装置」と評価される。